

開発に際しては、計測の速さと表示のわかりやすさにこだわった。顔の表面温度はわずか3秒から5秒以内の速さで常時計測され、37.5度以下かどうかアプリ画面に表示される



株式会社 CAMI&Co.  
代表取締役 神谷 雅史  
(かみや まさふみ)  
2006年、慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科 修了(國領研究室)。  
日本ユニシス株式会社 総合技術研究所、アクセンチュア株式会社 戦略部門を経て、2012年に株式会社 CAMI&Co. を設立。



# デスクに置くだけで常時体温を計測できる「IoTヘルスマニター」

非接触で顔の表面温度を常時計測できる「IoTヘルスマニター」を株式会社CAMI&Co. (キャミーアンドコー) が開発しました。デスクに置いた本製品にスマートフォンを設置するだけで従業員の体温を継続して計測できます。本製品の開発経緯、試行錯誤した点、こだわった点、そして、これからの展望などをお伺いしました。

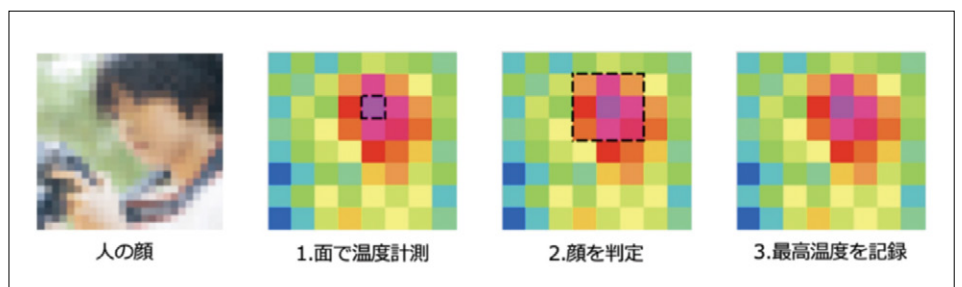
新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、「従業員の体温を常時計測し、発熱の有無を素早く計測する製品がほしい」という要望が同社に寄せられたことを契機に、「IoTヘルスマニター」は、3カ月という短い期間で開発されました。本製品は、デスクに置けるボックス型のIoTデバイスで、本体にスマートフォンを設置して使用します。内蔵されたサーモセンサーで顔の表面温度を毎時間計測し、その温度が37.5度以上の場合、計測した本人(従業員)と管理者のスマートフォンに警告を通知します。従業員も自身の健康状態をいつでも確認することができ、管理者はクラウド上で全従業員の健康状態を把握できる点が特長です。

従業員健康管理を行なうために開発された本製品ですが、最近では中規模の結婚式場や葬儀場、レンタカー店の受付などでも活用したいという声が多く寄せられており、活用場が広がっているようです。特に評価されているのは、デバイス本体がスマートフォンほどの大きさなので受付などに設置しやすく、非接触で素早く簡単に計測できる点だといえます。今後は、さまざまな店舗や会場などでより広く活用してもらうため、盗難リスクを回避することができる、デバイス本体にスマートフォンが埋め込まれた新しいタイプのものを製作しているそうです。

正式なリリースに向けて目下開発途中である本製品ですが、拡張性があるため、顔の表面温度以外の生体情報を組み合わせ、多角的な健康管理への活用を見込むことができそうです。同社では現在、「メンタルヘルス×IoT」領域での事業展開を予定しているとのこと。非侵襲のセンサーで、採血せずに血中酸素濃度を計測してモニタリングし、ストレスや心の不調を検知するなど、メンタルヘルスのケアやサポートを行なう製品・サービスも企画しています。同社の製品は、幅広いシーンでの活用が期待されています。

## 株式会社 CAMI&Co. (キャミーアンドコー)

2012年設立。ハード開発ができるコンサルティング会社として、調査・コンサルティングからIoT/DX(ハードウェア・ソフトウェア)製品の開発、製作を軸に事業を展開。IoTであるゆるシーンを効率化し、人々の暮らしを豊かに変革していくことをビジョンとしている。  
URL : <https://cami.jp/>  
株式会社 CAMI&Co.へのお問い合わせはこちら  
[contact@cami.jp](mailto:contact@cami.jp)



本製品は、面で温度計測をして顔をほかの部分と区別して判定し、最高温度を記録する仕組みとなっている。ピンポイントではなく、面のなかで最も高い温度を読み取るので、より正確な体温を検知することができる